

広島市現代美術館

ミュージアムショップ内装リニューアルについて

広島市現代美術館では、このたびミュージアムショップの内装をリニューアルいたしました。

このリニューアルは、平成 26 年春に解散した当館友の会からの寄付により実現。デザインは、広島を拠点に幅広い活動を展開する建築家、谷尻誠・吉田愛両氏が率いる建築設計事務所サポーズ デザイン オフィスが手がけ、新しい空間に生まれ変わりました。

デザインには、美術作品を輸送する際に作品を梱包している「クレート」と呼ばれる木箱がイメージされています。

普段は主に展覧会の舞台裏で使われるクレートを、ミュージアムショップに登場させるという発想により、館内に新鮮な空間が生まれました。同時に、ショップの内装をクレートのように仕立てることで、ショップ商品が作品と化し、利用者のワクワク感をかきたてます。



(上 2 点) リニューアル後のミュージアムショップ

内装リニューアルのコンセプトについて

美術館におけるショップの在り方について考える際にある風景を思い出しました。

以前 NY のグッゲンハイム美術館に訪れた際エントランスのホールに積まれた美術品の輸送用木箱の山です。そこにはこれから展示される美術品の入った様々なサイズと色の木箱が雑然と置かれていました。

異なるサイズの木箱でありながら共通した構造上のルールによって、図書館のような、マルシェのような、混沌とした中にも整然とした美しい風景を作っていました。

また、どこか遠くの街から今まさにこの場所にアートが運ばれ、ここでどんな新しい世界観が作られるのだろうかワクワクする期待感も秘めていました。そういった経験から美術館内のショップにおいて輸送用木箱は誰もが分かり易く、共通して理解できるアイコンとして機能すると同時に沢山の種類の商品をフレーミングして整理して美しく見せる機能として、また配置がどのように変わっても新しい景色を自然と作ることができます。

またそのマテリアルは、ヨーロッパの様式と蔵を思わせる日本の様式が混在し、自然石と現代的なアルミ素材など異素材によってコントラストが生み出しているこの美術館と同じく、軽快さと重厚感、チープと高級感などの意外性をもたらすような組み合わせで構築しました。

現代美術と同じく、境界がなく、既成概念という枠をこえて良い違和感によって新しさ、新鮮さの伝わる空間を目指しました。

サポーズ デザイン オフィス



(上) 内装完成直後の写真
(下) デザイン段階での完成イメージ図



(左) 谷尻誠、(右) 吉田愛
[サポーズ デザイン オフィス]
www.suppose.jp
広島市中区舟入本町 15-1 725 ビル

広島市現代美術館 (広報担当: 鈴木、後藤)
〒732-0815 広島県広島市南区比治山公園 1-1
TEL/ 082-264-1121 (代表) FAX/ 082-264-1198
E-MAIL/ hcmca@hcmca.cf.city.hiroshima.jp
WEB/ http://www.hiroshima-moca.jp/



<参考画像>美術作品輸送用木箱 (クレート)